

# 園長だより NO48

日本、世界中が新型コロナウイルスの感染に対応すべきことを現在も取り組んでいます。保育園でも開園を前提に施設でできることを継続しています。

いつまで続くのだろう、目に見えないウイルスに対しての不安はありますが、日々、変わる状況に対応しながら子ども達の生活を守らなければなりません。

新年度に入ってから行事などについても多くの人が集まる行事には感染防止の観点から内容の変更、縮小、(中止)などの措置をとることも予測されます。できるだけ従前どおりに行いたいという願いはありますが状況により、措置を講じる場合があることをご理解下さい。

## 行事を考える その2 誕生会

NO46の便りで以上児の誕生会について綴りました。ここ数年、保育内容の見直し、振り返り、行われてきた又これから行っていく活動、行事(保育内容)について考え、議論していく機会もってきました。

「ひとり、ひとりが大切にされる保育とは」「子どもを尊重し子どもが主体になって活動(生活)するとはどんなことだろう」

「丁寧な保育とは」等々

日常の保育のあれこれを評価し検証する作業を行っています。

特に開園から行われている行事については「あるものだから」「前年度もやっているか

ら」とつい、つい惰性で、慣例的に行われてしまうこともあります。誕生会もその一つです。

### ひとり、ひとりを大切に

毎月行われる活動であり、定型的な形が決まっている。惰性で行われることが危惧されます。複数の子ども達その日に祝われるため、「〇〇ちゃんの誕生祝いをしている」ということが希薄になってしまいます。異年齢で大きな単位で行えば尚更のことです。ひとり、ひとりの子どもの存在をはっきりしたものにしていかなければなりません。



### 子ども達の主体的な参加

子ども達の参加の仕方は年齢によって、その育ちによって変化していくこととなります。大きな単位ではなく子ども達が主体的に取り組める単位や内容の検討が必要と考えます。

例えば3歳児なら祝われる子ども達と一緒にクラスの仲間であそび、楽しさを共有する、クラス意識が十分育っていない子ども達もいますので生活を共にする中で互いの関係性に気づき、徐々に「おめでとう」という心の感情を芽生えさせ、「みんなで祝いする」ことを子どもながらに感じとらえさせていくことが必要と考えます。

3歳児は、まだまだ「うーんと個人差」がある時期、集団での活動を考える前にそれぞれの育ちの保障をしてあげる時期(やりたい、やってみたいことの尊重)でもあります。

進級からしばらくは「黄色い帽子のクラス」「ばななぐみさん」などシンボリックなものを頼りに自己のクラス帰属意識をもっています。

3歳児においては子ども達の育ちを考慮したクラス単位での会の在り方が望ましいと私は思っています。

### 大きい組の主体的な参加とは

5歳児ともなれば自分たちの会として取り組むことが可能になってきます。大きな規模ではなくクラス単位のものであれば子ども達にほとんど任せることができます。自分たちでその会の内容を考えたり、当日の過ごし方を考えたり、主体的に取り組むことを通して、仲間とのかかわり、つながりが確かなものになっていきます。

### 0歳児 1歳児の誕生会を考える

0歳、1歳児は保護者参加による誕生会をおこなっていますが、それぞれの子どもの育ちから参加の状況や見せる姿に大きな違いをみられます。子ども達はそれぞれのペースで過ごす、大まかな食事や睡眠の時間が決まっていますが個々に応じた対応を柔軟にしています。

ただ、誕生会当日については普段穏やかなクラスが一変することがあります。生活の流れが微妙に異なることで自分のペースが崩れてしまうことも度々、子ども達が不安になったり、落ち着きがなくなったり、落ち着きがなくなれば必然的に緊張感が生まれます。いつも以上に保育士への依存や要求が出てくる。その要求は泣く行為を引き出していき、本来はひとり、ひとりの発達や成長にあった配慮と援助が必要とされるものですが

上手く機能せず、保育士の悩みは膨らんでいきます。

### 保育園は子どもの心の安全基地

子ども達は保育者との信頼関係(関係を築きながら)を基盤に少しずつ未知の世界、体験に踏み出していく場所でもあります。日が経つにつれて心の発達も進み、自我が芽生え、自我の形成をすすめる大事な時期、園内においては保育者と一緒に過ごす子ども達で誕生を自然な生活の流れの中でお祝いしてあげることが好ましいと考えています。

現場では今、それぞれの年齢に即した内容や会の在り方を検討、協議を通じて次年度の方向性を出し示す段階にあります。

いずれ現場の保育士が保育の中で大切にしていきたい、それぞれの誕生日との出会いや、集団での取り上げかたを報告しご理解を求めることとなります。



10園あればそれぞれの考えがある。おおざら保育園では他園と比べれば異質に見えるかもしれない。「何も誕生会について、そんなにこだわらなくても」と思う方もいるでしょう。ただ、こだわることができる園の職員は向上し子ども達の生活も豊かになると思います。面前にいる子ども達にいきいきと活動してもらいたいと思うならば保育の中で感じた素朴な疑問に率直に対応し考えていくことが大切ではないかと考えています。

(園長 廣部信隆)